

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

うぐいす

日付 平成19年12月18日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

今年度から、隣同士の2つのグループホームが、1つの2ユニットのホームに生まれ変わった。行政からの助言もあったようだが、今まで独自のホームが一緒のホームとして運営していくには、それがサービスの向上にどのように結びつく効果を生み出すかが、今後の大きな課題であろう。

うぐいすは、6年の実績があり、愛夢の里は4年近い実績を共に積み重ねて来た。その2つのホームが、手続き上は今年度新しく誕生した事になる。今までも2つのホームは互いに交流しながらやってきた実績はあるが、利用者同士の交流、家族との共同関係、地域との連携において、両管理者と職員が協力し、助け合って、更に利用者が幸せな生活と生きがいのある人生を送ってもらえるような土台を築いてくれるよう願っている。

今年の4月、ホームの理念を職員皆で作し、その理念と方針を両ユニットに掲げている。この理念は、このホームの大きな柱であり、特長となる。この理念の下に、ユニット単位で、どのような具体的な計画を立て、毎年その姿を積み重ねて行く事が、ユニットの味となるだろう。利用者一人ひとりの個性や職員の人柄、資質によって、その味付けはそれぞれのユニットの特長となるだろう。

一つのホームになった大きな柱は、認知症ケアに対する基本であり、その根幹は介護計画と記録の様式と運用の方式になるのではないかと考える。介護計画と記録は、利用者一人ひとりの人生の“物語”を作り出すものと思う。介護計画は、その人の人間づくり、生活づくりのシナリオを作るもので、そのシナリオはアセスメントとカンファレンスの繰り返しで、その人の行く道筋を計画していく。記録は、その人の毎日毎日の歩んで来た生活の足跡となる。そして職員が、その人に対して支援して来た証となるものである。これらの、利用者の人間として歩んで来た実績とこれから生きていく方向を示す人生の物語が、介護計画と記録及び、関係書類の中に凝縮されているのだと考える。

今まで両管理者・計画作成担当者及び全職員が築いてきたこれらの仕事を、この機会にもう一度振り返り検討して、新しく拡大したホームの基本として、効率的にするものと、詳細に記録を残すものと、メリハリをつけたものにして、一つの物語としてのストーリーが誰にでもよく判るようなシステムにして貰う事を期待している。

特に改善の余地があると思われる点

利用者や家族にとっては、認知症という不幸な病気になってしまい、その人や家族にとっての人生を大きく狂わせてしまった事は、大変残念な事であり、苦悩を味わってしまったが、グループホームはそれらの人々にとって、残された歳月をどのような生活と生きがいを作り出してあげ、少しでも安心して暮らしていける実績を作る場所であり、そこで従事する職員と共に作り上げる環境づくりだと思う。職員は、この中で人間全体を対象として働く唯一の仕事を持っているもので、業界全体に云えることであるが、法人や事業所としては、その価値は大いに見直さなければならないと思っている。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善項はないが、今年度初頭に新しく全職員で「理念」を作り、新しいホームとして生まれ変わる体制である。この理念を柱として、ユニット毎にホームの特長を作り上げる計画を作って実行しているので、その成果に期待しておきたい。</p> <p>2、全体的に見て…：『自分らしさが継続できる暮らし、出来る事は自分で！ 自信と生きがいの持てる暮らし、なじみの人間関係を築き合える暮らし、一緒に外出し(地域の行事への参加、見学、買い物、散歩、食事など)学ぶ暮らし、そんな暮らしが実現出来るよう、いつも私達がそばにいます』という理念を掲げている。利用者の希望や意見を見出し、ペースに合わせてゆったりと生活している様子と支援している職員の行動が裏付けられている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善事項はない。もう長年に亘って生活している馴染みも出来ているし、利用者自身も自分達の生活の場をそれぞれに持っている。外も広い法人の敷地を利用して散歩したり、外食やドライブ等も、利用者の要望や今日は好い天気だからと思いついて、直ぐに外出出来るような自主性が管理者に与えられているので問題なしと判断している。</p> <p>2、全体的に見て…：広いリビングルームで、食事の場所、寛ぎの場所、運動や体操など機能訓練するスペースはゆったりとしている。今度は両ユニットの利用者が一緒に楽しめる広さがあり、ボランティアが来て色々な慰問も一緒に受けてきたが、これからも更に頻繁に活用出来るだろう。畑も色々な作物が植えてあり、毎日の食材の助けになって、利用者も収穫を楽しんでいる。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善項目にはあげていないが、ホーム内では各項目の中で実践している内容をもっと良くしていきたいと考えている事は盛り沢山ある。この評価システムでは、改良していくことを記載できないので省略しているが、介護計画や記録の様式の改良や運用の仕方等、常に改善を繰り返して、良いものに仕上がっているものもある。改良改善は限界なしという気持ちを持って、各要素の仕事に日々改良が行われている。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者の希望や意見をよく聞いている。それをすぐ実行する。利用者が入所した時の症状や身体機能を改善し、寝たきり状態の人が自分で食べれるようになった。食べ物やお茶の効用で持病が治った等医師から見放されていた人が、このホームの介助により人間らしく生きれるようになった事例は多い。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に要改善項目としては出ていない。ホームの方では色々改善したい項目は要改善として出していたが、余り細かい事や現在実施している事項の延長線上のことは全部削除した。何も改善しないということではなく、あれもこれも各項目に亘って意欲的に改善しようとしているが、これを自主評価に出せないのは、むしろ自主評価システムの方が適当でないところを指摘しておきたい。</p> <p>2、全体的に見て…：前述しているように、これから2人の管理者が職員の協力を得て、ケアサービスの向上に向けて実行していく事は多い。母体法人の方も、日常の運営の改善については、管理者に任せており、要望があれば協力的である。一人の管理者はベテランで積極的な考えを持っているし、一人は新しく管理者になったコンビなので、強力なリーダーシップと協力関係の中で良いホームを作っていってもらいたい。</p>		